

「インターフェイスの人文学」研究報告書 2004 - 2006 総目次

第1巻 岐路に立つ人文学

- 007 岐路に立つ人文学 —— 《インターフェイスの人文学》がめざすもの 鷺田清一

第I部 インターフェイス

- 031 組織のインターフェイス —— 企業における技術者 田中朋弘
061 技術のインターフェイス —— 人間-人工物-世界 直江清隆
083 書かれた行為と思想：学問のインターフェイス —— アルキダマス弁論術からの考察 納富信留
119 「異界」とのつきあい方 —— アデーレとアルトゥール 須藤訓任
149 「人と自然の共生」のためのインターフェイス 紀平知樹

第II部 知の存在論から

- 169 曖昧さの新たな倫理へ —— インターフェイス論によせて 檜垣立哉
183 哲学的説明 —— 規定と限定 中岡成文
195 アイデンティティ・ポリティクスとコミュニケーション —— 哲学は何をするのか？ —— 舟場保之
209 隠蔽し誘惑するインターフェイス 上野 修
223 近代理性と公共性に関する二つの問題 入江幸男

第2巻 人文学討議空間のデザインと創出 —— 若手研究集合 ——

- 009 はじめに

第I部 活動中の人文学

- 015 緒論 家高 洋

A. ディシプリンを問い直す

- 035 ユートピア小説と民族誌 —— 人類学における抵抗論と反=抵抗論を越えて 田沼幸子
055 籠を得てまた蜀までも得てみたら —— 多史料時代のベトナム史研究展望 蓮田隆志
065 異質なものの関係を考える —— ジャック・ランシエールの哲学から 家高 洋

B. テーマを深める

- 085 シャガールの作品はなぜ「あんなこと」になったのか？
—— 芸術創造の源へのアプローチ 樋上千寿
- 105 人々をつくりあげるとはどういうことか 上田 達
- 117 ラシーヌ：「古典主義」と「バロック」のあいだに 藤本武司

C. フィールドに関わる

- 127 社会心理学における〈臨床性〉と〈インターフェイス〉
—— アクション・リサーチにおける〈インターフェイス〉の設えをめぐって 加藤謙介
- 151 活動中の民主主義のために —— 文化人類学からの問いかけ 加藤敦典
- 167 *The Dilemma between “The Odd Man Out” and “The Useful Insider”*
Finding One’s Place under the Sun Stella Zhivkova

D. ディスカッションを伝える

- 185 〈問いの共有〉
- 199 ディスカッション・ドラフト検討会要旨

第Ⅱ部 若手研究集合における討議空間デザイン

- 209 第1章 〈インターフェイスの人文学〉と討議空間デザイン論 森 宣雄
- 229 第2章 若手研究集合における「場づくり」と「ツール」の意味
—— プロセスの価値の自立にむけて 久保田美生
- 249 第3章 若手研究集合の活動の経緯 加藤謙介
- 265 第4章 討議空間デザインのツールとメソッド —— DSマップの使い方と考え方 森 宣雄
- 281 第5章 DSマップ・テキスト・リマップの一例 井垣明子
- 289 〈資料編〉若手研究集合活動年表



第3巻 トランスナショナルリティ研究

はじめに —— トランスナショナルリティ研究の射程

小泉潤二、栗本英世

第I部 トランスナショナルリティ研究の展開

- 049 複数のグローバル化 —— 代替的な(ネイティブに代わる)トランスナショナルな過程と行為者たち
グスタボ・リンス・ヒベイロ
(久保明教訳)
- 109 グローバル化を問い直す —— ドミニカ共和国におけるジェンダーと輸出加工労働 ヘレン・サファ
(田沼幸子訳)
- 123 トランスナショナリズム研究の課題 —— 人類学の観点から 上杉富之
- 145 歴史、アイデンティティ、記憶の巻きついた力 ヴァレンティン・ダニエル
(松川恭子、田口陽子訳)
- 167 『再魔術化する世界』をめぐって 山之内 靖
- #### 第II部 ローカリティを超えて —— 事例研究
- 195 マグレブ系移民とフランス —— 〈ローカリティ〉のかたち 植村清加
- 217 モンゴル・ウランバートル市におけるトランスナショナルな場の生成 西垣 有
- 247 「アニヤラ」から「カクテル・パーティー」へ
—— 海外に登場するインドの儀礼パフォーマンス 竹村嘉晃
- 267 マレーシアにおける徳教(dejiao)の展開 —— 華人新興宗教の一形態 黄 蘊
- 295 周辺世界における農民と廃品回収業
—— 東インドネシア、西ティモールの事例 森田良成
- 309 おわりに 栗本英世
- 311 執筆者紹介(五十音順)

第4巻 世界システムと海域アジア交通

- 007 巻頭言 桃木至朗
- 009 総論 歴史学の危機と21世紀の挑戦 桃木至朗

第Ⅰ部 躍動する周縁と開かれた中心 —— インターフェイスの場としての海域アジア ——		
037	9世紀～14世紀前半の日本列島と海域アジア	山内晋次
059	A Review of the Periodization of Southeast Asian Medieval/Early Modern History, in Comparison with That of Northeast Asia	Momoki Shiro Hasuda Takashi
091	Maritime Trade and Edo Material Culture: The Long-Term Trends in Textile Imports and Metal Exports of Tokugawa Japan, ca. 1600-1800	Fujita Kayoko
第Ⅱ部 新しい歴史学と歴史教育の対話		
115	大学・高校の専門家の協働による歴史教育の刷新にむけて —— 第4回全国高等学校歴史教育研究会を振り返って ——	佐藤貴保
217	全国高等学校歴史教育研究会に参加して —— 大学と高校の円滑な接続を目指して ——	堀江嘉明
239	高校生と考える8世紀の東アジア世界 —— 世界史教材としての『続日本紀』 ——	笹川裕史
257	学びの定着をめざす歴史授業の一考察	松木謙一

第5巻 イメージとしての〈日本〉

プロジェクトとしての「イメージとしての〈日本〉」 伊藤公雄

第Ⅰ部 イメージとしての〈日本〉 —— 論文編 ——		
017	サブ・カルチャーの異質性とクール・ジャパンの実態	前田雅司
039	『あの旗を撃て』(1944)と『桃太郎・海の神兵』(1945)に映し出されるイメージとしての〈日本〉	池田淑子
061	俳句が海外に与えた影響 —— 日本語残留孤児としての台湾日本語俳句	染川清美
089	芸術社会学・試論 —— 新世界の「創造の現場」から	吉澤弥生
109	「ハイブリッド・オリエンタリズム」 —— 「テクノ(ロジー) ミュージック」と「ジャパニメーション」を事例に	太田健二
131	「ご主人様」のいない場所 —— 男装コスプレ喫茶をめぐるジェンダー論的考察	東 園子
153	「ゴシック・ロリィタ」コミュニティにおけるセルフ・アイデンティティ	水野 麗



第Ⅱ部	イメージとしての〈日本〉 —— 方法編 ——	
187	イメージとしての〈ポピュラー・カルチャー研究〉	古川岳志
209	「イメ日」班における方法論の実験報告 —— 研究ネットワークの構築のために	真鍋昌賢 伊籐 遊 山中千恵
219	呉智英氏講演録 —— 「ポピュラー・カルチャー研究の課題と可能性」	
245	「イメージとしての〈日本〉」活動彙報	
265	「イメージとしての〈日本〉」報告書総目次2002 - 2007	
271	執筆者・研究協力者一覧	
274	「イメージとしての〈日本〉」研究プロジェクトメンバー	

第6巻 言語の接触と混交

007	総括論文 コミュニケーションの様相からみた多言語共生社会：ちがいを豊かさに	津田 葵
-----	---------------------------------------	------

第Ⅰ部 共生を紡ぐ日本社会

021	日本人の共生意識 —— 外国人イメージ・言語意識・言語サービスに関するインタビュー調査から	布尾勝一郎 佐藤誠子 Woo Wai Sheng
059	共生を育む地域日本語活動に向けて	西口光一 新庄あいみ 服部圭子
099	外国人生徒の学校教育環境：高等学校を中心に	高阪香津美、津田 葵
137	「共生」の時代における民族と言語、学校	呉 恵卿、植田晃次

第Ⅱ部 言語接触論からみた日本語：そのさまざまな姿

175	複数の日本語への視点	工藤真由美
187	「言語」をめぐる移民史 —— ブラジル日系人の言語状況に関する民族誌的考察	森 幸一
273	ブラジル日系移民社会と日本語観	山東 功

315	ブラジル日系移民社会における言語生活 —— ブラジル日系人の言語能力意識と意識にかかわる諸要因	中東靖恵
第Ⅲ部 東アジアに残留する日本語		
337	残留日本語の調査研究について	真田信治
347	台湾におけるリンガフランクカとしての日本語	簡月眞
第7巻 モダニズムと中東欧の藝術・文化		
007	序論 モダニズムと中東欧の藝術・文化 —— 新しい世界図と人文学形成への第一歩	園府寺司
第Ⅰ部 境界をこえて —— 移動する藝術・文化		
017	中・東欧民俗音楽研究のための序説	伊東信宏
027	マチス・テウチ・ヤーノシュと中欧のアヴァンギャルド —— ブラッショ、ブダペスト、ベルリン、ブカレスト	井口壽乃
047	戦間期東欧の民俗学と柳田学	平賀英一郎
063	ブラハとイディッシュ演劇 —— 1911年のレンベルク一座の興行	佐々木茂人
077	ブラハのゴーレム伝説の四つの源流	春山清純
097	The Avant-garde in Hungary and its audience	Eva Forgacs
121	Russian dancers in Yugoslavia in the 1920s and 1930s	Elizabeth Souritz
第Ⅱ部 流動化にあらがう —— モダニズムとのせめぎあい		
147	国民文学史のはざま —— 〈ブラハのドイツ語文学〉研究史をめぐって	三谷研爾
159	話し言葉の「音楽的側面」の記述法を求めて —— レオシュ・ヤナーチェクのモラヴィア民謡研究における「発話旋律」の意義	中村 真
179	Jewish Avant-garde art in Poland <i>Yung Yiddish</i> (Young Yiddish) group	Jerzy Malinowski
191	Architecture of Warsaw Synagogues	Eleonora Bergman
205	Reciprocity and Mysticism: a new model for art in State Socialism	Rachel Beckles Willson



第Ⅲ部	たえざる脱領域化——アイデンティティの書き換え	
243	青い鳥を探して——中東欧の現代美術	加須屋明子
259	ハンガリーのターンツハーズモズガロム——彼らはなにをめざしたのか	横井雅子
275	<i>The Zhiva Voda of Bulgarian Folk Songs</i> Interfaces in the Genesis of a Festival	Stella Zhivkova
293	Non-Western Music in Postmodern Condition: A Perspective from Bulgaria	Claire Levy
319	On “Two Voices of Art History”	Piotr Piotrowski
339	The Problem of Modernism: Art Practice under the Gaze of Art History	Anna Brzyski

第8巻 臨床と対話

007	序	中岡成文
第Ⅰ部	現場力モデル	
013	現場力の学問化に向けて	中岡成文
027	〈現場力〉について——言葉による概念の受肉化	池田光穂
043	現場の知とその伝達——看護実践の成り立ちに注目して	西村ユミ
第Ⅱ部	対話モデル——災害・医療・カフェ	
063	災害ボランティア活動における対話関係の変遷——新潟県中越地震を事例として	渥美公秀
081	災厄の記憶と伝承の可能性：対話と公共性に向けて	関 嘉寛
099	災害における「記憶」と「対話」——モノとの関係をめぐって	加藤謙介
113	医療事故における謝罪と責任への探求	中西淑美
127	哲学カフェ探究——活動とインタフェイス	本間直樹、高橋 綾 松川絵里、榎本直樹
第Ⅲ部	インタフェイスの諸相——科学・芸術・ケア	
169	総括報告 COE 授業「科学技術と倫理」	稲葉一人
191	サイエンス・ショップ——人文学、そして大学にとっての意義と可能性	家 高 洋
213	一連の「芸術と福祉」国際会議の概要	藤田治彦
217	コンジュ2006「芸術と福祉」国際会議について	要 真理子

- 221 遺族支援システムの構築に向けて —— 地域における遺族支援の現状と課題
坂口幸弘、森田敬史、赤澤正人、岡本双美子、黒川雅代子、瀬良信勝、西牧真理、米虫圭子、恒藤 暁

別冊 Interface Humanities Data Book 2004-2006

第I部 概要

プログラムについて

研究の概要

研究メンバー一覧

第II部 データリスト

「インターフェイスの人文学」研究報告書2004-2006 総目次

その他の報告書 総目次

「インターフェイスの人文学」ニューズレター04-07 総目次

シンポジウム・ワークショップ・セミナー・研究会一覧

COE 科目

新聞・テレビ等の報道、出演 他

個人業績一覧



その他の報告書 総目次

プログラム全体

Le Japon, d'autres visages 日本、もうひとつの顔 Forum 2004 de l'Université d'Osaka à Strasbourg

発行日	2005年2月28日
編集長	金水 敏
翻訳	和田章男
編集	藤本武司
編集補助	竹内史郎、松本陽子
デザイン	西田優子
編集・発行	阪大フォーラム2004委員会 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

ごあいさつ

005	宮原秀夫
008	サカエ・ムラカミ=ジルー
009	インターフェイスの人文学 ―― 大阪大学フォーラム「日本、もうひとつの顔」開催にあたって 鷺田清一

資料

013	フォトギャラリー
018	フォーラムプログラム
020	発表者プロフィール

講演

028	日本、もうひとつの顔 鷺田清一
037	詩と暴力 ジャック・ルボー

| 日本：死の文化の伝統と現在

- | | | |
|-----|---------------------------------------|----------|
| 062 | 死の習俗——その伝統と現在 | 中村生雄 |
| 075 | 日本神話および神道における死 | フランソワ・マセ |
| 087 | 帝王の墓と記念施設——フランスと日本 | 江川 温 |
| 100 | 戦後日本ポピュラーカルチャーにおける「戦争」と「死」——男の子文化を中心に | 伊藤公雄 |

| 日本の相貌

- | | | |
|-----|------------------------|------|
| 114 | 中世日本の二重の顔——宝誌和尚像から落語まで | 荒木 浩 |
| 129 | フランス人の見た幕末日本 | 柏木隆雄 |

| 演ずる日本

- | | | |
|-----|-----------|--------------|
| 142 | 日本古典演劇の女性 | サカエ・ムラカミ=ジルー |
|-----|-----------|--------------|

○近代日本演劇とその分身——80年代における日本前衛演劇の再生と変容

- | | | |
|-----|---------------------|------|
| 152 | 如月小春の80年代都市的演劇 | 永田 靖 |
| 166 | 台湾における「舞踏」——秦かのこの台湾 | 林 于竝 |

○近代日本マンガの言語と身体

- | | | |
|-----|------------|------|
| 176 | 近代日本マンガの言語 | 金水 敏 |
| 187 | 近代日本マンガの身体 | 吉村和真 |

| 若手研究者フォーラム「インターフェイスの人文学——若手研究者による日本研究の現在」

- | | | |
|-----|---|-----------------|
| 200 | 村上春樹による「一貫性」 | アントナン・ベシュレール |
| 213 | 慣用複合名詞の研究——意味論的分析 | バドーバ・マダリナ・スベランタ |
| 223 | 『折たく柴の記』の上巻における新井白石の人生行路に
周囲の人たちが与えた影響 | ヴァンサン・リンゲンバッハ |
| 231 | 日本の伝統武術の『動き』の歴史——その構造、思想と変遷 | カセム・ズガリ |
| 235 | スタッフリスト | |



若手研究集合

インターフェイスの人文学——2005年度〈若手研究集合〉報告書

発行日	2006年3月24日
編集	〈若手研究集合〉報告書編集委員会
発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

1 はしがき

第1部

5	序論 共同研究プロジェクト「〈人文学の討議空間〉の創造とデザイン」における本報告書の位置	森 宣雄
17	遠き眺めを見つめる——ナショナリズムの「臨床的」研究のためのおぼえがき——	上田 達
25	「近世帝国」概念と東南アジア：世界システム論との対話	蓮田隆志
39	Celebrating colonial encounters: An examination of the postcolonial discourses and the socio-cultural politics of historical education in the Netherlands, in terms of the 400th anniversary of the Dutch East India Company, 2002	Fujita Kayoko
57	民主主義の民族誌と民族誌の民主化——人文学における臨床的アプローチのために	加藤敦典
79	言語調査を内観する——調査者の思いとフィールドの声——	李 吉鎔
101	学知の還元——調査報告を通して学ぶこと——	高阪香津美
119	1970年代以降の科学社会学の展開——「横断性」の観点から	家高 洋
139	社会心理学の「歴史」と〈横断性〉——人文学のインターフェイスの「道具」として——	加藤謙介
157	隠された歴史との対話——実証主義の限界についての方法論的考察——	森 宣雄
183	考現学の混沌から討議空間のデザインを考える——「研究」の〈経験〉と〈表現〉	伊藤 遊
199	To Be or not To Be... Interesting - A Hamlet Soliloquy on the Choices of Patterns for Social Interaction: The Cases of a Musician and a Musicologist -	Stella Zhivkova
215	ふたつの研究会をめぐるエスノグラフィック・ノート アイロニーを超える力	田沼幸子

- 225 Finding meaning in 'yama nashi, ochi nashi, imi nashi' - women and girls creating alternatives
to homosocial and heterosexist pornography Jessica Bauwens
- 239 デイシプリンという場：「非-場」を生きる研究対象と、それへのアプローチ方法 樋上千寿
- 259 2005年度個別論文検討研究会概要

第2部

- 267 「対話」をめぐるグループ・ダイナミクス —— 地域における人と動物の関係の事例より ——
加藤謙介
- 297 在日ブラジル人の子どもたちが直面している現実 —— 母語による会話力調査を通して ——
高阪香津美

プロセスを共有する人文学のために —— 若手研究集合の試み —— (DVD)

- 発行日 2007年3月31日
- 編集 若手研究集合
- 責任編集 若手研究集合DVD版報告書制作チーム(井垣明子、加藤謙介、久保田美生、蓮田隆志)
- 協力 内海博文、清水良介、鈴木径一郎、森 宣雄
- オーサリング 彩都メディアラボ株式会社
- プレス 有限会社松本工房
- 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

トランスナショナリティ研究

グローバル化と市民社会 —— トランスナショナリティ研究 3

発行日	2004年12月28日	
責任編集	木前利秋	
編集事務	木村裕之	
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」トランスナショナリティ研究	

3	はじめに	
7	1章 グローバル化の中の市民社会 —— 今日の理論的課題	木前利秋
39	2章 シティズンシップの行方 —— グローバル化の中で	亀山俊朗
63	3章 市民社会とシヴィリティをめぐって	時安邦治
93	4章 グローバリゼーションと社会的排除 —— メンバーシップの再編をめぐって	樋口明彦
111	5章 フンボルトの大学理念からの決別 —— 大学と市民社会	木村裕之
141	6章 グローバル化した世界におけるNGOの問題圏	関 嘉寛
161	7章 グローバル化の時代における消費者と市民 —— N. ガルシア=カンクリーニの所説を中心に (書評論文)	白石真生
177	あとがき	
178	執筆者紹介	

〈日本〉を超えて —— トランスナショナリティ研究 4

発行日	2006年2月27日	
責任編集	小泉潤二、栗本英世	
編集事務	加藤敦典、上田 達	
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」トランスナショナリティ研究	

3	はじめに —— 本報告書について	小泉潤二、栗本英世
---	------------------	-----------

第1部 多文化社会の現状と可能性

22	第1章 日本型多文化主義の可能性	駒井 洋
----	------------------	------

39	第2章 外国人労働者が変える日本文化	ベフ・ハルミ
54	第3章 クレオール時代 —— クレオール化 (Creolization) とクレオール性 (Créolité) についての覚え書き	デイヴィッド・ブレイク・ウイリス (加藤敦典訳)
80	第4章 越境する家族 —— 在豪ベトナム系住民と在日ベトナム系住民の比較研究	川上郁雄
105	第5章 メディア文化の国境の越え方	岩淵功一
第2部 学校教育とトランスナショナリティ		
126	第6章 学校文化とエスニシティ —— ニュウカマー外国人への教育支援をめぐる	志水宏吉
149	第7章 親の海外駐在と子供 —— 在外日本人児童と在日インターナショナルスクールの調査から	箕浦康子
第3部 「外」からみた日本の社会問題		
172	第8章 日本のホームレスの事情とそれに関する行政対策 —— 地域別・国際的な比較研究	トム・ギル
210	第9章 日本における児童虐待問題 —— 児童虐待の『発見』と防止策の展開	ロジャー・グッドマン
220	執筆者紹介	

■ ポスト・ユートピアの民族誌 —— トランスナショナリティ研究5

発行日	2006年2月28日
編集	田沼幸子
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

1	はじめに 田沼幸子	
A) 分科会「ポスト・ユートピアの民族誌」		
11	ポスト・ユートピアについて	田沼幸子
13	小さな、大きな物語 —— キューバの調査報告のための試論	田沼幸子
21	ユートピアの忘れ得なさ —— ある老人の独立インドをめぐる記憶／想起から	磯田和秀
31	ポスト社会主義ロシアにおける呪術の復興	藤原潤子
41	コメント	小田 亮

B)	シンポジウム「フィールドからのアプローチ」	
47	はじめに——複数の『ポスト』、複数の『ユートピア』	田沼幸子
51	地に呪われたものは立ち上がったのか——マルティニクの煩悶	石塚道子
71	遠き眺め——マレーシア・ナショナリズムの語り方	上田 達
85	革命的なプランの跡で、希望なき民主主義へ? ——ベトナムにおける村落民主のゆくえ	加藤敦典
97	新しい社会的リアリティをつくる——フランスにおける相互扶助アソシアシオンの事例	中川 理
115	いまそこにあるユートピア——ある労働者地下組織と『民主化』前後の韓国	太田心平
131	映画『Intervista』と人類学	大杉高司
138	コメント	富山一郎
147	塗り込められた記憶——ニカラグア壁画運動の周辺から	佐々木祐
161	YUMA——ハバナで望む、ここではないどこか、私ではない誰か	田沼幸子
181	贈与と商品、反復と差異	春日直樹
198	“vivre au paradis”——移動、イスラーム『回帰』、フランス市民社会	植村清加
211	同床異夢——共産党根拠地延安(1937年)の賀子珍、アグネス・スメドレー、呉広恵	佐々木一恵
223	教育に託した開発／発展への夢——内戦、離散とパリ人	栗本英世
242	コメント	松田素二
C)	コラム	
257	母たちの出稼ぎ——社会主義と『ヨーロッパ』と男と女	松前もゆる
262	『希望の首都』でありつづけるために	奥田若菜
266	ウランバートル、カラコルム、チンギス・ハーン——ポスト社会主義・モンゴルにおける都市の構想力	西垣 有
273	執筆者紹介	

■ ポストナショナル・シティズンシップ——トランスナショナルリティ研究6

発行日	(印刷中)
責任編集	木前利秋
編集事務	亀山俊朗・高桜善信
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」トランスナショナルリティ研究プロジェクト

はじめに

第1部 グローバル時代の人権とシティズンシップ

第1章 グローバル時代の人権とシティズンシップ

木前利秋

第2章 The Erosion of Citizenship in Japan

亀山俊朗

第2部 シティズンシップの現代的課題

第3章 多文化的シティズンシップの理論—— W. キムリッカの構想をめぐって ——

時安邦治

第4章 グローバル化の中の経済的シティズンシップ

伊藤 祐

第5章 文化的シティズンシップと消費 —— ポストモダンにおける包摂と排除 ——

白石真生

第3部 シティズンシップ論からの展開

第6章 ベーシック・インカムの政策的意義と課題

—— 財源・インセンティブ・フリーライダー・社会参加問題の検討を中心に ——

高桜善信

第7章 人間の安全保障と社会の再想像

—— 9.11以後の2つのトランスナショナルな政治的秩序との対照を手がかりに ——

内海博文

あとがき

執筆者紹介



世界システムと海域アジア交通

世界システムと海域アジア交通 2004年度報告書

発行日 2005年2月28日
 責任編集 桃木至朗
 編集 佐藤貴保
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

4	巻頭言	桃木至朗
7	第2回全国高等学校歴史教員研修会	桃木至朗、佐藤貴保
83	2004年度主催行事一覧	

世界システムと海域アジア交通 2005年度報告書

発行日 2006年2月28日
 責任編集 桃木至朗
 編集 佐藤貴保
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

4	巻頭言	桃木至朗
7	第3回全国高等学校歴史教育研修会「新しい歴史学と歴史教育」概要報告	桃木至朗、佐藤貴保
87	2005年度主催行事一覧	

Creating Global History from Asian Perspectives Proceedings of Global History Seminars and Workshops 世界システムと海域アジア交通2004-2006

発行日 2007年3月
 責任編集 秋田 茂
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

1	Introduction	Shigeru Akita
9	Globalization and the Science of History: Topics, Methods, and the Critique of Global History	Wolfgang Schwentker
28	From World-System Analysis to Global History	Norihisa Yamashita
46	Shift of the Core of European World Economy 1500-1815: Dutch Contributions to the Formation of British Hegemony	Toshiaki Tamaki
63	Global Economy and Indigenous Development: Port Towns in Pre-colonial South India	Tsukasa Mizushima
89	The East Asian International Economic Order in the 1950s	Shigeru Akita
109	Development of Cotton Industry in Postwar Hong Kong and Taiwan	Toru Kubo
126	List of Global History Seminars and Workshops in Osaka	

Global History and Maritime Asia, Working and Discussion Paper Series

Working Paper No. 1

発行月 2005年10月

Fujita Kayoko

In the Twilight of the Silver Century: A Re-Examination of Dutch Metal Trade in the Asian Maritime Trade Networks.

Working Paper No. 2

発行月 2005年12月

Walter Dermal

The Nobility: A Global Perspective

Aoki Atsushi

Local Elites in Medieval China.

Working Paper No. 3

発行月 2006年12月

Jügen Osterhammel

Approaches to Global History and the Question of the "Civilizing Mission".

Working Paper No. 4

発行月 2007年1月

Kent Deng

Foreign Silver, China's Economy and Globalisation of the Sixteenth to Nineteenth Centuries.

Working Paper No. 5

発行月 2007年1月

Susanne Weigel-Schwiedrzik

World History and Chinese History: 20th Century Chinese Historiography between Universality and Particularity.

イメージとしての〈日本〉

イメージとしての〈日本〉05 —— 海外における日本のポピュラーカルチャー受容と日本研究の現在

発行日 2006年1月31日

責任編集 伊藤公雄

編集 太田健二、吉澤弥生、山中千恵、Jessica Bauwens、伊藤 遊

編集・発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

i はじめに 伊藤公雄

第1部 海外における日本のポピュラーカルチャー受容と日本研究の現在

I グローバリゼーションの中の日本のポピュラーカルチャー

5 クラブミュージックから見たグローバリゼーション —— アシッド・ジャズを事例に

太田健二

13 Japanese Comics and Globalization ジェシカ・パウエンス

23 バックパッカーのカルチュラル・スタディーズへ向けて —— バックパッカー研究の現状と課題

藤田智博

33 日本マンガ的要素の現地化 —— 香港のマンガとポピュラーカルチャー

呉偉明(屋葺素子訳)

II	海外における日本文化研究の現在——調査報告	
45	調査概要	
53	アジアにおける日本研究の現在	屋葺素子、藤田嘉代子、山中千恵、 朴ヤンスン、岡田トリシヤ・サラザル
91	ヨーロッパにおける日本研究の現在	東園子、唐澤佑子、杉本悦子、 ジェシカ・パウエンス、レナト・リヴェラ
105	北米における日本研究の現在	前田雅司、稲見直子、スミス・ジョシュ
119	中南米における日本研究の現在	太田健二
127	オセアニアにおける日本研究の現在	藤田智博、伊藤 遊、山中千恵
第2部 「イメージとしての〈日本〉若手研究者交流ワークショップ2005」より		
I	論文編	
141	バイナリズムの狭間で：消化されゆく「日本同性愛文化」表象への一考察	菅沼勝彦
151	Japanese anime becoming mainstream in the West... or is it?	レナト・リヴェラ
157	「反戦」に写る自己像——「きけわだつみのこえ」の読みの変容と戦後のナショナルイデー	福間良明
213	「他者」表象の可能性と限界——『日本人的一少女』を読む	梁 仁實
231	津田左右吉が想像した共同体——邪馬台国・ヤマト・日本	一瀬陽子
II	座談会ポピュラーカルチャー研究とこれからの大学	伊藤公雄、吉村和真、金水 敏、川村邦光 (司会 表智之)
第3部 資料編		
267	海外日本研究機関一覧	
323	イメ日活動彙報	
335	執筆者・調査協力者一覧	

言語の接触と混交

言語の接触と混交 ― 共生を生きる日本社会

発行日	2005年3月1日
責任編集	津田 葵、真田信治
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

5	まえがき	津田 葵
7	韓国系民族学校における「共生」 実践的な取り組みを中心として	呉 恵卿、植田晃次
31	共生を生きる日本社会 中国地方における学校の取り組みをめぐって	高阪香津美、津田 葵
57	共生日本語空間としての地域日本語教室 言語内共生を促進する新しい日本語活動とコーディネータの役割	新庄あいみ、服部圭子、 西口光一
87	外国籍住民が抱えている生活問題について 大阪府下の地方自治体に対するアンケート調査 および外国籍住民に対するインタビュー調査の結果をもとにした考察	羅 暁勤、山下 仁
117	日本力行会による移民教育 異文化教育黎明期に学ぶ共生	眞崎睦子
137	内なる国際化と国際理解教育に関する一考察 日本人高校生への言語連想調査を中心に	松本敬子

言語の接触と混交 ― 国際シンポジウム「多言語・多文化社会としての日本の現状と課題」

発行日	2005年3月1日
責任編集	津田 葵、真田信治
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

5	Preface	Aoi Tsuda
9	Language and National Identity-With an Outlook on Language Mixing and Linguistic Purism	Ulrich Ammon
29	Japanese Language Under English Language Imperialism	Harumi Befu
49	The Role of Canada's Multiculturalism Policy in Minority Heritage Language Education: The Case of Japanese as a Heritage Language in Canada	Hiroko Noro

61	Language Maintenance and Loss in Contact Situations: Effects of L2 on L1 Development in Children	Muriel Saville-Troike
75	“Sometimes I’ll start a sentence in English and nihongo de owaru”: A Minimalist Processing Analysis of Bilingual Code-Switching	Rudolph C. Troike

言語の接触と混交——台湾残存日本語の談話データ

発行日 2005年3月1日
 責任編集 津田 葵、真田信治
 編集・発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

5	はじめに
7	凡例
9	談話1 アミ人と閩南人の日本語談話
11	談話2 アミ人と閩南人の日本語談話
13	談話3 アミ人と閩南人の日本語談話
15	談話4 アミ人と閩南人の日本語談話
20	談話5 アミ人と閩南人の日本語談話
23	談話6 アミ人と閩南人の日本語談話
31	談話7 アミ人と閩南人の日本語談話
51	談話8 アミ人と閩南人の日本語談話
66	談話9 アミ人と閩南人の日本語談話
98	談話10 アミ人と閩南人の日本語談話
113	談話11 アミ人と客家人の日本語談話

言語の接触と混交——共生を拓く日本社会

責任編集 津田 葵、真田信治
 発行日 2006年3月1日
 編集・発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

5	まえがき	津田 葵
---	------	------

7	中部地方外国人集住地域における共生の歩み：交流のきっかけづくり	津田 葵、高阪香津美
67	「多文化共生」をめぐる現状と未来：ある韓国系民族学校の事例から	呉 恵卿、植田晃次
105	大阪における多言語表示の実態：まちかど多言語表示調査、外国人へのアンケート調査、行政・鉄道へのインタビュー調査から	佐藤誠子、布尾勝一郎、山下 仁
147	メディアが呈示する日本語教室	新庄あいみ、西口光一
181	資料	
217	活動記録	

言語の接触と混交 —— サハリンにおける日本語の残存

責任編集	津田 葵、真田信治
発行日	2006年3月1日
編集・発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

5	Preface
7	The Remnants of Sakhalin Japanese

PartI: Dynamism of language contact in Sakhalin Island

12	Introduction
14	Chapter1 Illustration of Sakhalin Island
20	Chapter2 History of language contact in Sakhalin Island
44	Chapter3 Language contact and the emergence of Japanese-based pidgin at sea trade
59	Chapter4 Dynamism of Japanese-related language contact in Poronaisk
77	Conclusions
79	References

PartII: Spontaneous Speech Database of Sakhalin Japanese

87	Introduction/Legend
89	概要／凡例
91	サハリンの日本語談話集
93	談話1 朝鮮人による日本語談話（その1）
115	談話2 朝鮮人による日本語談話（その2）

- 135 談話3 日本人による日本語談話
- 145 ウィルタ人による日本語談話
- 154 ニブフ人による日本語談話

言語の接触と混交 — ブラジル日系社会言語調査報告 (CD-ROM 付属)

発行日 2006年3月1日
 責任編集 工藤真由美
 編集・発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

I. ブラジル日系社会の言語調査 — 調査の経緯と意義 —

- 5 1.ブラジル日系社会言語調査の概要
- 9 2.ブラジル日系人の談話音声資料
- 15 3.CD 談話収録者の言語生活について

II. ブラジル日系社会と沖縄 — 調査地域と沖縄との接点 —

- 23 1.沖縄県ブラジル移民小史 — 戦前を中心に —
- 33 2.ある沖縄系移民社会の予備的考察 — 家族・コミュニティ —

付属CD-ROM：ブラジル日系人の談話音声資料2005

言語の接触と混交 — ブラジル日系人(沖縄系)言語調査報告 (CD-ROM 付属)

発行日 2007年1月17日
 責任編集 工藤真由美
 編集・発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

I. ブラジル日系人(沖縄系)言語調査 — 調査の概要 —

工藤真由美

- 1 1.はじめに
- 1 2.ブラジル日系人(沖縄系)言語調査について
- 2 3.データの公開にあたって

II. ブラジル日系人(沖縄系)の談話資料——音声資料と文字化資料——

中東靖恵、高江洲頼子、仲間恵子

- 4 1.はじめに
- 4 2.談話収録地点の概要
- 4 3.談話音声資料の話者
- 5 4.談話音声資料の作成にあたって
- 5 5.CD-ROMの構成内容
- 5 6.談話音声文字化資料作成にあたって
- 6 7.談話音声文字化資料

付属CD-ROM：ブラジル日系人(沖縄系)の談話音声資料2006

モダニズムと中東欧の藝術・文化

越境／モダンアート Transboundary / Modern Art

発行日	2007年3月15日
責任編集	岡府寺 司
編集	樋上千寿
発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」

005	序——越境する芸術への問いかけ	岡府寺 司
007	Vincent van Gogh in Search for a Place in the Art world	Evert van Uitert
029	Van Gogh <i>als Erzieher</i> : Early Chapters in the Globalization of Conceptual Art	Robert Jensen
047	越境と摩擦 ——ロバート・ラウシェンバーグの《モノグラム》とストックホルム近代美術館	池上裕子
069	Hans Ludwig Cohn Jaffé 1915-1984: From the <i>Bildung</i> to the <i>Ethica</i> of De Stijl	Tsukasa Kōdera
105	中央ヨーロッパとモダニズムについての対論——ハンガリーを中心として	小島 亮 (聞き手：伊東信宏)

臨床と対話

臨床と対話 2004年度報告書 —— 第3回対話シンポジウム

発行日 2005年2月28日
 編集 稲葉一人、大阪大学大学院文学研究科臨床哲学研究室
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」臨床と対話

4	まえがき	中岡成文
5	総括	稲葉一人
9	1 医療紛争解決におけるMediationの可能性	稲葉一人、Peter Robinson & Jim Stott
51	2 Mediation(調停)トレーニングを体験する	稲葉一人、Peter Robinson & Jim Stott
123	3 被害者と加害者にとっての語ることと聞かれることの意味 —— 対話の前提としての被害者理解、加害者理解 ——	藤岡淳子
145	4 地域からのADRの発信	
197	資料：ペバダイン大学とストラウス紛争解決研究所	

臨床と対話 2005年度報告書 —— 第4回対話シンポジウム in 愛媛

発行日 2006年2月28日
 編集 稲葉一人、和田直人、家高洋
 発行 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」臨床と対話

4	まえがき	中岡成文
5	第4回対話シンポジウム in 愛媛 総括	稲葉一人
9	第4回対話シンポジウム in 愛媛 開催要項	
11	1 対話を促進すること —— 大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの試み	中岡成文
19	2 ADRから対話の促進へ	稲葉一人
29	3 専門家が市民間の対話を促進する仕組みと、人の育成 —— 地域において紛争解決を支援する(地域における連携) 総合コーディネーター	稲葉一人、和田直人
89	地域からのADRの発信 —— 市民と一緒に紛争を解決する(市民との連携) —— 司会 稲村厚、入江秀晃/総合コーディネーター 和田直人	

「臨床と対話」研究グループ2006年度報告書——第5回対話シンポジウム

発行日	2007年3月31日	
編集	稲葉一人、家高 洋	
発行	大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」臨床と対話	
.....		
4	まえがき	中岡成文
5	対話シンポジウム(第1回～第5回) 総括報告	稲葉一人
9	第5回対話シンポジウム「地域からの対話促進の発信——対話の多様性と可能性」	
10	開催要項	
12	第5回対話シンポジウムの開催にあたって	中岡成文
19	教育現場における対話促進によるもめ事解決策——メデイエーション教育への夢を語り合おう!—— NPO法人シヴィル・プロネット関西	
20	講演 米国オハイオ州の「ピア・メデイエーション」視察報告	竹村登茂子
34	講演 日本におけるメデイエーション教育の課題とその可能性	水野修次郎
49	パネルディスカッション メデイエーション教育への夢を語り合おう! コーディネーター:津田尚廣	
69	メデイエーションを広く社会に普及する方法 長崎伝習所メデイエーション研究塾	
95	ADR 日本の原点を訪ねて——「村の寄り合い」とADR—— 愛媛和解支援センター	
125	哲学カフェは対話文化のなかでどのような役割を果たすのか カフェフィロ(Café Philo)	
126	哲学カフェ探求	本間直樹、高橋 綾、松川絵里、榎本直樹
165	裁判員評議における人間関係を考える——市民のための評議トレーニング—— NPO法人日本メデイエーションセンター	
166	国民が主体的に参加できる裁判員制度とは	田中圭子
169	裁判員制度の評議のためのグループワーク	稲村 厚
173	資料:第1回——第4回対話シンポジウム開催要項	

神戸 - 中越被災地交流フォーラム —— 生活支援員の最前線から学びあう ——

発行日 2006年2月28日
 編集・発行 神戸-中越被災地交流実行委員会
 (日本災害救援ボランティアネットワーク、震災がつなぐ全国ネットワーク、中越復興市民会議、
 大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」臨床と対話)

2	はじめに		渥美公秀
5	創造的復興のために		村井雅清
16	神戸・阪神での生活支援を通して		中村大蔵
中越震災1年～被災地からの報告～			
23	長岡市からの報告		西川久美子 本間和也
29	旧山古志村からの報告		大平久和 草間頼雄
33	小千谷市からの報告		保科義明 本田均
39	川口町からの報告		星野慶子 鈴木幸子
グループディスカッション			
45	長岡市・小千谷市グループでの議論	ファシリテーター	黒田裕子
57	旧山古志村・川口町グループでの議論	ファシリテーター	中村大蔵
67	おわりに		稲垣文彦

| 資料編

「インターフェイスの人文学」ニューズレター04-07 総目次

Interface Humanities 04号		2004年7月30日発行
2	「研究集合」宣言 ―― あるいは知のターミナルの創造のために	富山一郎
6	特集 モノの人文学	藤田治彦 聞き手 三谷研爾
11	「医師と聴診器」	山中浩司
12	「音楽を読み解くためのピアノ」	筒井はる香
16	「空き瓶と町」	森田良成
17	「緑黒袖掛分皿」	猪谷聡
18	「モノ・ツクモ、カガミ・ココロ」	荒木浩
	Interface 人とネットワーク	
22	流動性と閉鎖性のダイナミズム トランスナショナルリティ研究	
24	音楽はなにを描くか	ステラ・ジブコバ
25	社会にひらかれた対話の知	屋良朝彦
	ih.Topics	
26	Event Report 2004 平成16年度懐徳堂春季講座〈107回〉「生のかたち 死のかたち」	
	フィールドのざわめき	
28	シルクロード出土文献の現物調査	佐藤貴保
	人文学のフロンティア	
30	“実験”美術史学? ―― シャガールの源泉を求めて ――	樋上千寿
32	編集後記	

- | | | |
|----|---|------------|
| 3 | 対談・不安をかたどる | 春日 匠×中岡成文 |
| 6 | 不安と非知 | 家高 洋 |
| 12 | 不安のミニマリズム —— 現代アメリカ小説の行方 —— | 片渕悦久 |
| 16 | 「失う」不安 | 前田達朗 |
| | Interface 人とネットワーク | |
| 18 | モダニズムと中東欧の藝術・文化 | |
| 20 | ジェンダーの視点から問題知を共有する | ジェシカ・パウエンス |
| 21 | 他者理解へ繋がることば | 松本敬子 |
| | ih.Topics | |
| 22 | 阪大フォーラム「日本、もうひとつの顔」
2004年度「インターフェイスの人文科学」ワークショップ
コミュニケーションデザイン・センター発足
イベント情報 | |
| | 現代を測る | |
| 26 | マンガと差別の悩ましい関係 | 表 智之 |
| | フィールドのざわめき | |
| 28 | フィールドからの「声」
—— 高齢者施設での動物・ロボットを介したケアの事例より —— | 加藤謙介 |
| | 人文学のフロンティア | |
| 30 | テキストから肉声へ —— フランス古典主義演劇の校訂テキストをめぐって —— | |
| | | 藤本武司 |
| 32 | 編集後記 | |

Interface Humanities 06号		2005年10月21日発行
3	インタビュー 媒介の知恵	稲葉一人 聞き手 構成 本間直樹
7	何を「横断」し、どう「臨床」するべきか	中岡成文
9	インターフェイスとメディアのデザイン	池田光穂×小林傳司
12	出来事のデザイン	久保田徹 清水良介 花村周寛 本間直樹
14	コミュニケーション支援技術について	西田正吾
16	「イメ目」ワークショップの実験報告 —— ディスカッション・ペーパー、インスタレーション	伊藤 遊
18	『海域アジア史研究入門』にむけて	蓮田隆志 藤田加代子
20	オタクとコミュニケーション	井手口彰典
	ih.Topics	
21	イベント・刊行物情報	
	Interface 人とネットワーク	
22	「共生」という器に何を盛るのか 言語の接触と混交	
24	媒体／霊媒としての歴史記述	森 宣雄
25	エキゾチックでも、ユートピアでもなく	田沼幸子
	現代を測る	
26	韓日の歴史問題にみる対話の臨床性	李 吉鎔
	フィールドのざわめき	
28	もめごとの参与観察	加藤敦典
	人文学のフロンティア	
30	グローバルヒストリーの探求	秋田 茂
32	編集後記	

- | | | |
|----|---|------|
| 2 | 座談会 知のプロセスは共有されるか
鷺田清一×森宣雄×蓮田隆志×久保田美生×加藤謙介
司会 三谷研爾 | |
| 5 | マッピングが可能にした人文学のインターフェイス | 田沼幸子 |
| 5 | 哲学における〈接続詞〉 | 家高 洋 |
| 10 | コミュニケーションツールとしてのディスカッション
ペーパーと討議支援マップ | 森 宣雄 |
| 10 | 『討議支援マップ』と他の手法との違いについて | 加藤謙介 |
| 12 | リニアな思考の手前でたちどまる | 三谷研爾 |
| | ih.Topics | |
| 21 | イベント・刊行物情報 | |
| 22 | Interface Humanities Illustrated 《インターフェイスの人文学》を描く
現代を測る | |
| 26 | 「二つの文化」と科学史の役割 | 山中浩司 |
| | 人文学のフロンティア | |
| 28 | 歴史学の刷新または全体を見るということ | 桃木至朗 |
| | 人文学のフロンティア | |
| 30 | フィガロはなぜ理髪師にして「街のなんでも屋」なのか? | 伊東信宏 |
| 32 | 編集後記 | |